

豊岡病院「ぎりぎりの状態」

コロナ対策徹底 地域医療維持 協力を

全国的に猛威を振るっている新型コロナウイルス。但馬地域でも今月になって感染確認が相次ぎ、昨年8月からの累計で1000人を超えた。そんな中、第一線でコロナと向き合う但馬の病院は、どのような状況なのか。地域の基幹病院である「公立豊岡病院」（豊岡市）を運営する病院組合の松原昭雄管理者（聞き手・熊谷暢聡）者に尋ねた。

運営組合・松原管理者

現在の医療態勢は。

コロナ感染者用として、豊岡病院で集中治療室（ICU）を含め50床、朝来市の朝来医療センターで9床を確保している。ただ、これらを運用するためには、医療スタッフを集める必要がある。そうなると通常の医療に制約が出てしまう。

豊岡病院のICUでは、コロナに対応できるのは5床。それ以外には1床しかないため、コロナの重症患者が増えると通常の救急医療にしわ寄せがいく。

豊岡病院では一時、13人の患者を受け入れたが、10〜20床程度の運用でも厳しい。半分も埋まれば通常の医療を抑制せざるを得ず、非常事態と考えるとほ

しい。

豊岡病院のICUでは、コロナに対応できるのは5床。それ以外には1床しかないため、コロナの重症患者が増えると通常の救急医療にしわ寄せがいく。

医療資源が乏しい但馬において、「オンリーワン」の存在ともいえる豊岡病院は、通常の診療を守りながらコロナ対応もしなければならぬ。今でもぎりぎりの状態が続いており、これ以上の感染増加に危機感を持っている。

組合として対策は。とにかく院内感染を避けなければならぬ。入院患者の面会制限を継続し、昨年12月下旬からは全ての患者について入院前のPCR検査もしている。職員にも家族を除いた複数での外食自粛や、マスクの常時着用を呼びかけている。仮に感染者が出たとしても、その最大限の医療は提供し



豊岡病院の新型コロナウイルス対応について説明する松原管理者（豊岡市で）

ていくが、病院で受け入れられる数には限りがあるの